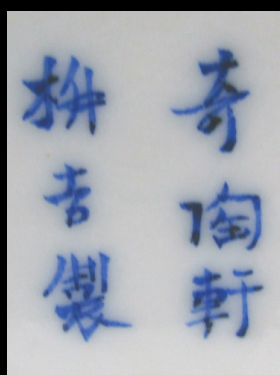


明治・瀬戸焼の名窯・作家

～ 千年以上の歴史をもつ繊細な陶磁器 ～

川本枡吉 [初代：1831-1907年、2代：1852-1918年]



瀬戸・北新谷の名陶工で「奇陶軒」と号しました。初代は加藤安左衛門の三男として生まれ、幼少期から高い技術力に定評があり、5代・川本半助の養子になった人物です。1862年に6代・半助に代を譲り独立し、瀬戸での最初の輸出磁器を生産し、1873年の

ウィーン万博に染付の瀬戸焼を出品し受賞しました。その後1881年に東京に輸出磁工社、瀬戸磁工社を設立、1882年には森村組の依頼でコーヒー茶碗の製作に成功した。1886年に隠遁して「枡山」と改めました。1894年には瀬戸町長も務めました。繊細な「染付焼」のものが多く、東京国立博物館や瀬戸のミュージアムなどでも同陶工の作品があります。

また、ウィーン万博以降に日本に伝わった海外の新しい技術「石膏型」を伝えるため、自宅に「伝習所」を設け、そこに技術者を招いて広く石膏型の技術を伝えるなど、瀬戸での磁器生産の技術革新を進めた中心的人物でした。

< 海外万博の主な受賞歴 >

1873年：ウィーン万博（受賞）

1876年：フィラデルフィア万博（受賞）

1878年：パリ万博（受賞）

< 国内の主な受賞歴 >

1890年：第3回内国勸業博覧会（受賞）

1895年：第4回内国勸業博覧会（受賞）

1903年：第5回内国勸業博覧会（受賞）

